

みやの森通信



発達凸凹向けフリーペーパー 第25号:2023年5月11日発行 編集長:家森 謙
Ponteとやま(みやの森カフェ) 富山県砺波市宮森303 電話:0763-77-3733
メール:miyanomori.ponte@gmail.com

Ponteとやま facebook 検索



カターレご来訪

「誕生日寄付×カターレ富山」贈呈式☆

3月20日、みやの森通信第24号でもご報告した「誕生日寄付×カターレ富山」(協力:公益社団法人日本フィランソロピー協会・JPA)目録贈呈式にカターレ富山代表取締役社長左伴繁雄氏および椎名伸志選手、伊藤拓巳選手そしてホームタウン営業部池田茉由さんがみやの森カフェに来てくださいました!

はじめ緊張していた子どもたち、若者たちでしたが、左伴社長はじめ、両選手の明るくて温かい人柄にすっかり魅了され!(^^)!,そしてうちとけ、いろんなものにサインしていただいたりお話をしたりとても素敵なひと時を過ごしました♡

いただいた寄付金で、炊飯器やボウル等買わせていただきました!カターレ富山のみなさん、そしてフィランソロピーの皆様のご厚意に心から感謝いたします。本当にありがとうございました。大切に使用させていただきます。



ちょこっとメモ 誕生日寄付とは以下協会HPより引用 (<https://www.birthday-donation.jp/>)
～自分の誕生日や記念日などに誰かのために寄付をするのです。自分の誕生日や記念日が誰かのためにも大切な日になる。「おめでとう」から「がんばって」そんな気持ちが毎年この日をもっと楽しく、そして幸せを感じる日にしてくれるはずです～

広告募集。 みやの森カフェに居る加藤へ直接お話いただくか、

0763-77-3733(みやの森カフェ)、miyanomori.ponte@gmail.com へ本日に連絡を



募集中

なっちゃんの山紀行 vol.8

薬師沢～雲ノ平～黒部川水源地標～黒部五郎岳 3泊4日縦走の旅(3日目)

3日目。三俣山荘の朝。ガスあり雨無し。さて。乾燥室で干していた相方の雨具ズボンが無い。取り違えなら別のズボンがある筈ですが、何も無い。こりゃ盗られたなど。今日も雨は降るだろう。2,000mの高山では夏でも低体温症のリスク大。雨具ズボンは必須なのに…。と、山小屋の方が古いズボンを貸して下さる。地獄に仏です。

気を取り直し出発。ガスの晴れ間に槍ヶ岳が見えます。目指すは黒部五郎小屋。雪渓を渡り、雄大な山肌トラバース、からの沢道をドンドコ下ると黒部五郎小屋の赤い屋根が。やったー！…しかしチラ見えしてから沢道はドンドコ続く。「まだけー」「まだけー」心の中でボヤきつつ下りまくった先、コバイケイソウの花畑の中に、赤い三角屋根の黒部五郎小屋がありました。「アルプスの少女ハイジ」の世界で水分やオヤツ補給をして出発。しばらくして目の前に黒部五郎岳が。折しも晴れ間。ガスガスDAY is NO眺望、と思っていましたが、もしかして。更に。目の前に開ける広大な黒部五郎カールがババーン！です。巨大なすり鉢の斜面にコバイケイソウ花畑。奇岩モニュメント。「見たことのない景色」に大興奮！冒険の醍醐味ここにあり、です。すり鉢のジグザグ急登ですがウキウキと登り上げ、黒部五郎岳直下の稜線。本来なら北アルプスの山並みドーン！ですが、ウキウキ急登の間に晴れ間タイム終了。ガスがお戻りになり真っ白です。当然山頂も真っ白。でも笑えてくるのは「見たこともない真っ白」だからでしょう。真っ白すらうれしい。冒険の醍醐味です。

さあ、後は長い稜線歩き、北ノ俣岳から太郎平小屋を目指します。長いぞ。覚悟はありましたが、長い。白い。長い。しまいに遠雷ゴロゴロな雨。とにかく歩く歩く。気持ちは冒険者。身体は中高年。足が悲鳴を上げているのを騙し騙しです。少しの晴れ間に見える、広大な緑色の斜面、点在する池塘、お花畑…。北ノ俣岳稜線、こんな場所だったんだ…。足は痛い景色には大感動です。もう小屋の夕食始まっちゃったなー、と思ったその時。眼下に太郎平小屋の屋根が。野麦峠が見える…じゃない、しっかり歩かねば。小屋に到着した途端、黒部五郎岳方面の空に大きな虹。冒険フィナーレとして出来過ぎです。太郎平サンセットも満喫して、大冒険の長い一日を無事に終えることとなりました。



雪渓越しに槍ヶ岳！

黒部五郎小屋。
アルプスの少女
ハイジの世界。

黒部五郎岳が見えた！

真っ白でも
登頂はうれしい！！

サンセット太郎平

一学校に行く自由・行かない自由ー

選択したのはわたしたち

Ponteとやま 2023春のフォーラム開催

2023年 3月26日（土） 於：アイザック文化ホールラポール

富山型デイサービス「大空と大地のぼピー村」が主催し、富山YMCAフリースクールと高岡のひとのま、私たちPonteとやまの三つの居場所が発表しました。

子どもたちが、「学校に行きたくない」と言い始めたとき、「見守った方が良い」「すぐ対処した方がいい」とさまざまな考え方があります。しかし、たいていは本人の気持ちを置き去りにした大人側の意見です。

また、大人は「学校に行きたくない」ことに注目しがちですが、学校に行っていたときにも

子どもたちはつらかったことや違和感があったはず。つまり、現在学校に行っている子たちも「つらさ」や「違和感」を感じている可能性もあります。「学校に行く、行かない」に焦点を当てるのではなく、子どもたち、若者たちの本音に耳を傾ける時間にしたいと企画しました。



語るのは、自分で選択したと思える人生を今歩いている子どもたち、若者たち。小学生のこうたろう君、中学生のひなたさん、高校生のあさひ君、そして過去に経験した、しほさん、なつこさん、そしてコメンテーターに金山敦さん、米沢拓也さん。皆さんの堂々としたそして自然体のお話に会場の皆さんも聞き入っていました。

学校に行っていなくても学びたい気持ちはあるし、学びのチャンスはある。そして、必要があると自分が

感じたときに、自分で選択した学校に行って必要な学びを得る。発表者の子どもたち、若者たちは皆「自分で選んだ学び」についても語ってくれました。現在学校に行っているとかいないに注目するのではなく、この人が必要としている学びの気持ちやエネルギーをどう守っていくのか、それが大切なのだと感じた時間でした。

ひとのまの宮田さんが、「今30代、40代で引きこもっている人の中には、不登校が選択できなかった、周りに言われたとおり頑張ってきたけど、自分の意思がどこにあるのか見えなくなってしまった。今自分でどう動いていいかわからないという人が多い」と語ってくれました。必要なのは、自分の意思で決めること、歩くこと！大人はそれを見守ること。参加者は70人を超え、最後は予約をお断りせねばならず、申し訳ありません。

それでイベント冊子を作成する予定です。できあがったらお知らせしますね。

語ってくれた皆さん、参加してくださった皆さんに、深く感謝します。

ありがとうございました。



みやの森カフェ アートの時間 (2023年4月)

みやの森カフェスタッフ/臨床美術士の渡邊恭子です。
アートカフェ、のそのそアートはみんなで楽しむ表現の時間。
見て触って感じて、心の旅にて出かけます。

のそのそアート…『満開の桜』 (4月幼児から小学生)

ポカポカのお日様とちょっぴり冷たい風が吹きました。
道々揺れる満開の桜。
子ども達も風景を目に入れながら、春を心に重ねていくのだらうと思います。
冬を越した木の力、春の勢い、みんなの中からも湧いてきて花がひらいていきました。
鑑賞会を終えると日向ぼっこと影ふみ鬼。
今日のお日様も風も笑い声もまた、みんなのからだに沁み込みます。



アートカフェ…『くらげ水族館』 (4月大人のみなさん)

クラゲが漂うように…なる様になるさ。
こうでなくっちゃなんて事はないね。
皆さんそんな事を言い合いながら水流に身をまかせるようにゆったりとした気分で描きました。
水に溶け込んでしまいそう…と思いきや、発光しながら姿を表すクラゲ達。
集まったり、離れたたり…
描き終えた水槽を覗き込むと、クラゲは気持ちよさそうに浮遊していました。
作品を眺めれば、いつでもこの気分をあじわえそうです。



学会発表

日本社会関係学会
パネルディスカッション
参加！

3月20日(月)、私(加藤)と川合祐司君は、日本社会関係学会第3回研究大会学会発表に参加しました。場所は千葉大学西千葉キャンパスけやき会館とのこと。私たちは、みやの森カフェにてZOOMで画面越しに発表いたしました。

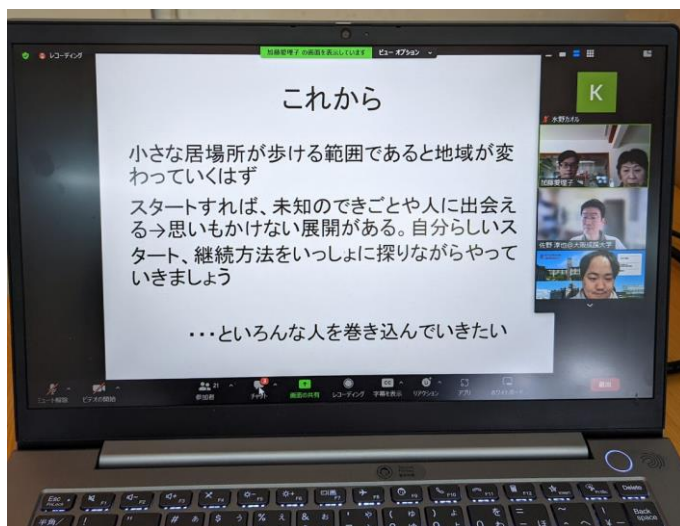
テーマは、「ブレンディング・コミュニティ型地域の居場所」における社会関係とウェルビーイング。支援／非支援や、専門家／非専門家の枠を越えて相互理解と支援の関係が生まれているブレンディング・コミュニティ型の地域の居場所（コミュニティカフェ、地域の縁側、子ども食堂など）の可能性を三つの事例を通じて探求するというもの。

メンバーは、森祐美子（こまちぷらす）・小辻寿規（立命館大学）・瀬上倫弘（横浜市立大学）・野村美里（津田塾大学）・奥野美里（同志社大学）・佐野淳也（大阪成蹊大学）というそうそうたるメンバーに入れていただきました。（敬称略）

今回当日の発表だけでなく、昨年からZOOMで皆さんと打合せを重ねて、いろんなことを学びました。私たちみやの森カフェは「理念ってあまりないよね」「結構いきあたりばったりだよ」とけっこういいかげん。「見かけはカフェだけど、来る人たちがごちゃまぜで不思議な空気だよ」ということも。ところが、それを「わかる」「わかる」といつてもらえるのです。支援、被支援の境目もない、専門職の人も来ているけど、専門職の空気がない人ばかり。理念より現実、足下重視。どうも「ブレンディング・コミュニティ型地域の居場所」は共通してそんな空気をはらんでいるらしい。

横浜の「こまちぷらす」は、まちづくりにも積極的に参加して、この「ブレンディング・コミュニティ型地域の居場所」の動きを大きく牽引してくれているし、京都の「バザールcafé」は、HIVの患者の支援から始まり、もう30年近くごちゃまぜの居場所を運営しているとのこと。そんな素晴らしい活動をしている皆さんと活動や思いの分析を行い、発表までまとめていくという作業は新鮮で、興味深かったです。佐野淳也先生にはいろんな面でお世話になりました。

川合君と私の漫才に近い発表も「画期的です！」と褒めていただいて嬉しい限り。6月に今度はNP0学会での発表も予定しています。また、いろんな出会いがあると思います。私たちは井戸からちょっと外をのぞいたカエルの気分です。



みやの森通信バックナンバーはこちら

Ponteとやま フリーペーパー

検索



Ponteとやま全体案内はこちら

Ponteとやま

検索



里山ランチ

3月9日、チアキちゃんの里山ランチ初登場！



チアキちゃんは、自然療法や野草の料理などの知識が豊富で、身体が求めていることを教えてください。小矢部から砺波の山の中に引っ越してきたチアキちゃんの家の中は宝物がいっぱいあるそうです。季節の移ろいの中から今いただけるものをいただく。その料理はおいしに決まっています。

この地域、梅檀野、梅檀山にはここにしか生えない珍しい野草もいっぱいあると聞きました。それを聞くと周りの景色が違ってくるような気がします。今回のランチは春の始まり…「菜花を川の岸から摘んできたよ、ちょっと苦みがあるから辛子和えにするね」「土筆とセリは田んぼの畦から。ふきのとうも伸びちゃったけど茎が使える」…もう想像を絶する食材。

この日のメインは、野菜の重ね煮と春雨入りの春巻き。土筆とふきのとうの茎の和え物、菜花の辛子和えの小鉢、とてもおいしかったです。若者たちもいつもと違うメニューが嬉しそうでした。

今後、この里山ランチ以外にも蕎麦仙人まつださんの石挽き、打ち立てゆでたての蕎麦ランチが予定されています。みやの森カフェのごちゃまぜ進化、お楽しみに！



からだによい土間『三和土』作り体験会

3月8日（水） 富山県中央古民家再生協会（事務局長 笹川征一氏）が手がけておられる射水市の古民家（カフェ&ゲストハウス&居酒屋にリノベーションの予定だそう）にて、三和土（たたき）つくりのDIY体験に行ってきました！

つないでくださったのは、カターレ富山 椎名伸志選手。椎名選手は、「子ども応援プロジェクト」として不登校や凸凹キッズたちが、社会とつながりを持つ中で自分に自信を持ち、元気に自分の人生を歩めるように…と地域の企業様をご紹介くださっています。



参加したのは、Ponteとやまフリストメンバーの子どもたちと若者たち総勢14名😊。木製の「鋺」を作るチームと、三種類の土を混ぜるチームに分かれて作業開始です。続いて混ぜた土を広げ、鋺でパンパンッと叩きながら固めていきました。鋺をほどよい力で振り下ろしながら叩くと（力を入れるだけでは鋺に土がついてしまう）、少しずつ土が固まっていきます。子どもも大人も、目の前の手仕事に無心で取り組み続けることで、心もからだも程よく疲れすっきりした気分を味わうことができました。つないでくださった椎名選手、体験会を主宰してくださった笹川さん、本当にありがとうございました！



青年期発達障害者等居場所事業(県委託)2022年度も
様々なことにチャレンジしました☆講座でお世話になった講師の
お二人からコメントをいただきました!

骨盤調整ヨガ® 講師：柴田千尋氏

元保健体育教員。教育現場での経験や自身も怪我で競技を辞めたことから、
長く楽しく運動に親しんでいける心と身体をつくることの大切さを感じ、
中高生や子供たち、シニア層など年齢に関係なく幅広く心と身体を整える
ヨガを普及させたいと思い活動中。



当初は身体の部位の名称の認識や身体の動かし方もぎこちなく、痛みやコリの意識も
低く、全身お疲れの皆さんでしたが現在は冒頭部分を説明しただけでも自分で
動かせるようになり、お互いに『こうじゃない?』など教え合う場面もよく見られます。
最近では身体の癖や変化にも気づくと同時に多くの『明言』も生まれ、私も毎月その
『明言』を楽しみにしております。参加者の方からいただく多くの気づきに感謝しております。

おしゃれ講座Ⅱ「眉の整え方レッスン」講師：松原千華氏



ヘアメイクデザイナー。美容師歴16年。ヘアメイクスクールSABFA卒業後、日々のサロンワーク
の中でメイクに対してのお悩みをもった方が多いことを知り、メイクのお悩み解決のお手伝いが
できたらと2022年美容室をオープン。
オシャレすることを諦めないでほしい。
みんなにオシャレを楽しんでもらいたい。

眉を整える事は第一印象に大きな影響を与えますが、
まずは興味を持つことから!皆さんが眉ハサミとコーム
を持って真剣に鏡を覗き込む姿に、少し興味を持って
もらえたかな?と思っています。眉を整えた後のかっよかった
姿を忘れないで続けてくださいね!



Ponteとやま(みやの森カフェ) 頂き物とお仕事一覧(3-4月)

みなさまのご厚意に心から感謝いたします!

【頂き物】米・菓子・ベトナムのお土産・野菜・パン・おもちゃ・圧力鍋・ミキサー・
誕生日ケーキ・食器・本棚・お祝いの花・座布団・防止柵・紅茶・スリッパ・鍋など

【イベントなど】○3月12日(日) 富山県聴覚障害者協会 教育講座 講師(水野)
○3月20日(月) 社会関係学会第3回研究大会発表(加藤・川合)
○3月21日(火) ちょこっとマルシェ(ココロの駅) 出店(加藤・水野・川合)
○3月26日(日) Ponteとやまフォーラム「学校に行く自由・いかない自由
ー選択したのはわたしたちー」(小杉ラポール)
○4月13日(木) 県立小矢部園芸高校 教員研修会 講師(水野)

編集長家森の



目 選択、決断、実行▼プロ野球広島カープに永川勝浩という投手がいた。ダイナミックな
フォームから繰り出される剛速球とフォークボールを武器にセーブポイントを重ねるクローザー。際立つ個性は
ファンを魅了するに十分だった▼そんな永川も年月を経、若い頃の輝きを失っていく。そして一つの決断に
行き着く。「(従来の)フォームをバラし、教科書通り投げ、それで駄目なら(現役生活は)終わり」結果、貴重な
中継ぎとして復活。現役生活を長く務める結果を得られた▼教科書やそれと同等に扱われている物には、長年
の様々な経験を基に導き出された集大成が書かれている。つまり、成功する確率の高い事が書かれている。
それに従えば成功する確率が上がるのは必然。後はそれを受け入れるか否か。そういう選択/決断も時には
必要という話だ▼永川は現在、二軍コーチとしてカープの投手達と向き合っている。二軍には将来を夢見る
高卒入りたての若手もいれば、二軍暮らしが多くなった中堅ベテランもいる。エンタテイメントとしてプロ野球を
捉えるなら、個性と教科書は車の両輪。長くない現役生活を送る選手達に深追いや迷い道はそうそう許され
ない。選手一人一人にどう寄り添い、どのタイミングでどういう道へ導いてあげるか。模索は今日も続く

96歳 つれづれエッセイ vor8

悪餓鬼との戦い

昭和8年私は地元の小学校に入校しました。

担任の女の先生は母と親しいらしく私にも目をかけくれました。私も素直な子でいなければいけません。その頃は私達が学校から帰ると玄関に鞆を投げ込んで外にとびだします。

遊び友達に不足はないし、自然は優しく相手になってくれます。田舎では勉強しなさいなどと言う親もあまりいませんから、その気になればたやすく優等生になれたのです。私が学年末に頂いた賞状には学業のほかに操行優も併記されていました。お行儀がよいということです。幼稚園で先生を困らせた腕白坊主は陰を潜めていたのです。

二年生の頃だったと思います。在る日教室の横の廊下に立っていたら、名うての悪餓鬼Sが後ろから私の頭を平手でバシッと叩いて駆け抜けました。私が待てと言うと彼が止まって振り向いたところに飛びかかり、乱闘になりました。私が彼を組み伏せたとき頭を持ち上げて起きようとしたので上半身を被さった途端肩をくいつかれしました。全く野犬みたいな奴でした。先生が飛んできて止めたので、双方離れて立ち上がった途端彼が大声で泣きました。これで勝負ありです。大勢が見ている前で組み敷かれたのが悔しかったのでしょう。痛くて泣きたいのはこちらです。

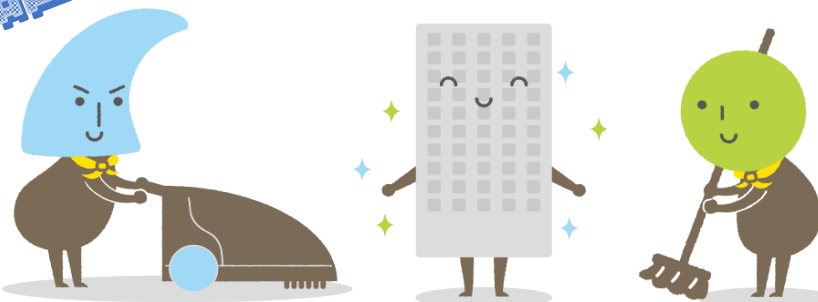
実はその場に美少女Tが一部始終みていたのです。彼が私にしかけたのも、私が反撃したのも彼女がその場にいたためとも言えるかもしれません。私は保健室で手当してもらい、先生のすすめで早引けしました。家では何も言いませんでしたが、先生がSをつれて見舞いにきたため、母に喧嘩のことを知られてしまいました。母に「どれ見せてごらん」といわれガーゼをとってみせたら、「まあ、この子は」とあきれただけでなにも言いませんでした。この傷跡は数年経って消えましたが、同じ頃、彼女が病をえて亡くなったことを知りました。私の初恋が完結したのです。



伊藤博芳(みやの森カフェのお父さん)

広告

誰もが働ける地域社会へ



建築物の内外の衛生的環境を確保し、ビルを利用する全ての人々に衛生的で快適な空間の提供を目指します。

スタッフ大募集(特に氷見市!)

電話かホームページのお問合せフォームへ

快適空間の創造を目指して..
株式会社アドバンス北陸サービス
Tel 076-295-7040

<http://www.advancehokuriku.co.jp>

ADVANCE Hokuriku Service

アドバンス北陸

検索